

「愛を問われて」

ヨハネによる福音書 21章15節～19節

説 教 本庄侑子牧師

主イエスは十字架の上で私たち全ての者の罪の贖いを成し遂げて死に、復活されました。その後、40日間弟子たちの間に姿を現され、ご自身が本当に生きておられることを示されました。

復活の主に出会っていただいた人の一人にペトロがいます。かつて、ペトロは主を裏切りました。この事実は、彼がそのことをどれほど恥じて消しようのないものです。漁師であったペトロは漁に出て、夜通し働きました。せめて自分の専門分野で挽回しようとしたのかもしれませんが、しかし、何もとれませんでした。そんなペトロを、復活の主が見ておられました。

主は炭火をおこし、朝の食事を用意して待っておられました。主は、愛することに失敗したペトロをなお愛し、必要な糧を用意して生かそうとさせていただきます。日曜日ごとに聖餐卓の周りに集められる礼拝は主による食事の席です。どれほど暗い夜を過ごしても必ず朝は来ます。どんな一週間であっても必ず日曜日は来ます。復活の主が、必ず私たちを迎えてくださいます。

今日の聖書箇所は、そのような食事をともにした後でなされた主とペトロの会話です。主にとっては、ここからが本番でした。「ヨハネの子シモン、わたしを愛しているか」(15、16、17節)と、主は3度、ペトロの愛を問われました。

「わたしの掟を受け入れ、それを守る人は、わたしを愛する者である」(14章21節)「あなたがたに新しい掟を与える。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」。(13章34節)そうおっしゃった主は、弟子たちの足をお洗いになりました。人の足を洗うとは、当時の社会で奴隷の仕事です。主はそうして弟子たちに愛を示されたのです。そして十字架に向かわれました。

主を愛するという事は、教会の兄弟姉妹や、生活の中で一緒に生きる人々を、この主の愛で愛するという事です。ペトロは主に3度、愛を問われたとき悲しくなりました。3度とは、ペトロの裏切りの回数と同じです。ペトロは主を愛し抜けませんでした。自分の身に害が及びそうになった時、逃げました。

私たちは、人を愛して生きること、互いに愛し合うことに本当の喜びがあるとわかっていますが、愛せない自分を引きずっています。愛することは自分に死ぬことであり、犠牲が伴うからです。どうしても赦せない人の顔が浮かびます。この人といったら自分の人生はどうなるのかと愛

することを投げ出したくなります。

ペトロもあの時、愛することを断念しました。そのことでペトロが負っている傷を、主はご存じでした。この傷は癒されなければなりません。だからこそ、十字架の死から復活を遂げた後、朝の食事を用意して、ペトロを迎え入れ、愛を問うてくださったのです。十字架で成し遂げてくださったあの愛をペトロに注ぎ、ペトロの中に完成するために、そして弟子たちが互いに愛し合って生きようになるために。

「主よ、あなたは何もかもご存じです。わたしがあなたを愛していることを、あなたはよく知っておられます。」(17節)ペトロは、かつてのように「あなたのためなら命も捨てます」とは言いませんでした。「愛せない」と居直ることもありませんでした。主は、過去の過ちには一言もふれず、これからの愛を問うていただきました。愛せ得なかった自分が、これから愛するようになる。その姿を、主が知っていてくださる。ペトロには、もうそれで十分でした。

復活の主との出会いの中で、ペトロは鎧を捨て、自分は完全な罪人であると素直に認めることができるようになりました。そして、「主よ。」と助けを求めて祈るようになりました。十字架で成し遂げてくださった主の愛が、私たちの中に、私たちの間に完成するように導いてくださる主に、自分自身をすっかり委ねたのです。

主は、ペトロのこれからが思いどおりには行かないこと、行きたくないところへ連れて行かれること、しかしそこで、神の栄光を現すこともお示しになりました(18節)。「連れて行かれる」としか思えない場所であっても、「主を愛する」場所になり得るからです。私たちは知っています。かつて、自分の行きたいところへ行っていた結果、主を愛し損なったペトロが、この後、行きたくないところへ連れていかれながらも、死の間際まで愛に生き抜いたことを。

この後、他の人のことが気になっていたペトロに、主は「あなたは、わたしに従いなさい」(22節)と重ねて命じてくださいました。主は、あなたに言われるのです。あなたが愛に生き抜くことをわたしは知っている。あなたはわたしの栄光を現す。わたしがあなたを選んだのだ。「あなたは、わたしに従いなさい。」

(記 説教要約奉仕者)